

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 チャイルドハズ豊川		
○保護者評価実施期間	令和8年1月6日		～ 令和8年1月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数) 3名
○従業者評価実施期間	令和8年1月6日		～ 令和8年1月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月3日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	長い経験がある保育士・作業療法士など資格を持った職員が勤務しています。余裕を持った配置を行え、個別に近い体制で支援を行っています。	児発管・保育士や児童指導員など、各分野の研修に参加すると共に社内研修を定期的実施し、職員のスキルアップに努めています。	今後OTを中心に、粗大運動・微細運動など感覚分野にアプローチできる課題を増やし、感覚統合の発達を促します。
2	児童発達支援と放課後等デイサービスの両方のサービスを一つの事業所で行っている為、異年齢の友達との交流が経験できます。児童発達支援の児童は放課後等デイサービスのお友達の姿を手本とし、お互いに助け合える関係性を育てています。	個々の児童の得意を發揮できる場を設け、自己肯定感の向上に努めています。積極的に県内の子ども達が活躍するイベントなど(あいちアール・ブリュット)に参加しています。	日々の集団活動や遊びの中で、楽しみながら得意を伸ばせるよう工夫しながら療育を行っています。
3	保護者との連携や交流会などが充実しています。	日々の子ども達の様子を、連絡帳、SNSで発信したり、モニタリングや支援計画説明の時に情報共有をして信頼関係を深めています。また外部からメンターさんをお招きし、日々の悩み、困り事などを相談する場を設けています。	今年度より保護者会とは別に保護者様と外部講師・メンターさんなどが交流できる日を設け、職員と一緒に学びあう機会を作っています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流・他の保育園など同世代のお友達との交流が充実できていませんでした。	地域のイベントが事業所の利用日以外に行われていることが多く、参加できませんでした。	イベントの模範範囲を広げる。今後は開所日が一日増えるので週末のイベントに参加できる機会も増えることが見込まれます。
2	兄弟児の交流など保護者様の要望に添えることが出来ない状況でした。	職員が書類業務などに時間を取られ、兄弟児の交流会などを開く余裕がありませんでした。	福祉系学生などボランティア活動の受け入れを検討し、利用児の兄弟の交流も深めていきたいと思えます。
3			